道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

「学校で一番」

紫陽花（あじさい）の花が咲く頃となりました。6月は旧暦では水無月（みなづき）と呼ばれます。雨がたくさん降る月なのに、水が無い月と書くのは変な感じがしますね。「無」という字は無いという意味ではなく「の」にあたる助詞で、田んぼに水を引く月、水の月という意味になります。まもなく梅雨に入り、じめじめした蒸し暑い日が続くと思いますが、気持ちはいつも晴れやかに学校生活を送って欲しいと思います。

6月3日（土）・4日（日）の両日に行われた中等祭は、絶好の晴天に恵まれ無事終了しました。生徒一人ひとりの力が結集した素晴らしい文化祭と体育祭でした。1年生から6年生までの異なる年齢の集団がひとつになって取り組む行事こそ、中等教育学校の良さであるということを改めて感じることができました。

中等祭を通じて、多くのことを学んだと思います。クラスや学年の団結、協力して一つのことに向かう心、やり終えた充実感などがあげられます。何事にもやらされるという姿勢でなく、自分たちで頑張ろうという気持ちが大切だということも学んだことでしょう。また、仲間の違う一面が見えたことでしょう。この成果を今後の学校生活に活かし、お互いの違いや良さを認め合い、励まし合って、素晴らしい仲間づくりをしてください。

先日の全校集会でも話をしましたが、福沢諭吉が慶応義塾の創設時、生徒に送った言葉です。

【より良い学校にするために】

学校で一番楽しいことは、好きな教科を持つことである。

学校で一番さみしいことは、注意してくれる友だちのいないことである。

学校で一番みじめなことは、規則を破っても気にならないようになってしまっていることである。

学校で一番みにくいことは、授業の邪魔をすることである。

学校で一番美しいことは、落ちていたゴミを拾うことである。

◎礼儀の第一歩は「あいさつ」

朝、「おはようございます」と元気よく声をかけられてどんな思いがしますか。「おはようございます」と返すと、今日一日頑張ろうという気持ちになりませんか。通りがかりにかけられた一声が自分に勇気とやる気を与えてくれるのです。

昔から、「親しき中にも礼儀あり」という言葉があります。これは礼儀の根底に人間尊重の精神があり、礼儀正しく接することは相手を一人の人間として大切にしているということの証だからです。よく「無視された」という理由でけんかになったり、いじめられたと感じて傷ついたりする人がいるのも、そのためです。礼儀の第一歩はあいさつです。そして、あいさつは人と人をつなぐ架け橋になり、相手の心に自分の心を届けることができるのです。

あいさつは、それぞれの文字を頭にして「**明るく、いつも、先に、続けて**」と言われます。あいさつは心掛けと実践です。大きな声で爽やかなあいさつを続けましょう。